

NEWS!

Vol. 44-1
No. 215
令和7年新春号

編集・発行
髙松 松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年、年初元旦に能登半島地震が発生し、翌日2日には羽田空港の滑走路で日本航空の旅客機と海上保安庁の航空機が衝突炎上と大変な災害と事故で始まりました。地震の被災地では、9月に記録的な大雨が降り土砂被害が発生、さらなる災害となりました。インフラ整備や生活・主要道路の復旧も進んでおりますが、引き続き復興支援が必要と言えます。

3月には、北陸新幹線が金沢から敦賀まで延伸されました。東京と福井間は乗換なしで3時間を切る2時間51分で結ばれまして、関東圏からのアクセスが格段に向上しました。これにより福井も来県者が増えており、また北陸新幹線を利用した被災地への来訪支援も期待されております。

同じ頃、マイナス金利政策が17年振りに解除されました。これで漸く通常オペレーションの入り口に立つこととなったわけですが、外国為替の円安傾向は変わらずで、今後の推移を注意深く見守りたいと思います。

秋には日本では石破首相が誕生、11月の米国大統領選挙ではトランプ氏が勝利し、新しい政権運営が始まっております。この頃から各市場より引き合いが増加傾向にあり、今後の製造業へのプラスの影響を期待したいところです。

昨年の工作機械の世界市況は、活況とは言えませんでした。日本工作機械工業会の目標年間総受注額1兆5,000億円に対して10月末時点で約1兆2,227億円となっており、目標達成は難しいとは言え月平均1,000億円超えていて底堅く推移した年でした。

そんな環境下でマツウラは、主要展示会の米国・シカゴで開催されたIMTS2024、ドイツ・シュツットガルトAMB、そして東京のJIMTOF2024に出展しました。直感的な操作性とプロジェクトデータ一括管理を実現した最新オペレーティングシステム **MiOS 4** を搭載した **MX** 及び **MAM72** シリーズ機を各展示会に展示し、来場者の方々に実機やシミュレーターを通して使い易さを体験していただきました。またJIMTOF2024では、工程集約を目指し旋削機能を付加した新型5軸複合マシニングセンタ **MX-520T PC4** を初出展し、旋削加工能力の高さに好評を得ました。またさらなる自動化対応の提案例 **MAM72-42V PC32** with 協働ロボットやハイブリッド金属3Dプリンタ **LUMEX** の金型や部品の分かり易い実例プロセス説明展示も実施し、大きな注目を浴びました。どの展示会でも多くの来場者で活気があってお陰様で大変盛況な展示会となりました。

さて新年を迎えるにあたり、本年弊社90周年の節目の年となり、拡張整備された武生事業所に機械及びスピンドル組立業務が統合・集約されて、これから新たな生産体制を本格稼働して参ります。生産効率の向上と市場ニーズに応じた機種生産の対応、並びに技能伝承教育の強化や製造技術の平準化を進めながら、全社で次の時代を見据えた取り組みを加速させていただきます。本年も格別のお引き立てを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

株式会社 松浦機械製作所

代表取締役社長 松浦 勝俊

日本のヘソ 福井 No.212



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第212回目は「みどりのスコップ」の話です。福井県では、近年まとまった雪が降ることがたびたびあり、直近では2018年2月に福井市内で最深積雪が130cmを超え、2021年1月には同市内で100cmを超える積雪となり、国道8号線や北陸自動車道にて1,000台以上が立ち往生したニュースも記憶に新しいところです。

豪雪地帯の福井県でありますので、除雪対策は福井県の大きな課題です。自動車道こそ除雪車などで除雪を行

いますが、歩道まで綺麗に除雪をしようとすると、人や費用が大きくなります。そこで実施されているのが、「みどりのスコップひとかき運動」です。この運動は、2004年に発生した福井豪雨の災害復旧ボランティアで使用したスコップを再利用して、交差点で信号待ちをしている人々などに雪かきを協力してもらうというもの。この「みどりのスコップ」には、「み」んなの「ど」うろ、「り」ようしやすく、の意味があり、その名の通り緑色のカラーリングで交差点の電柱やバス停などに設置されています。設置場所は取り組み開始の20年前から年々増加し、今シーズンは昨年より3箇所多い159箇所に合計386本のスコップが設置されます。福井にお越しの際は、みどりのスコップを見かけたら「ひとかき」のご協力をお願いします。

ユーザー を訪ねて

No. 199

株式会社 富士精機製作所 MXシリーズの多台持ちで試作加工の

今回のユーザーを訪ねては、西武鉄道新宿線田無駅から徒歩11分の距離にある株式会社富士精機製作所です。取材には、代表取締役社長を務める永岡慶様に対応頂きました。

同社は1960年12月に現在の本社所在地と同じ田無市（現西東京市）にて永岡社長の祖父にあたる先々代の永岡実氏が創業。同氏は航空機メーカーのエンジニアで、創業当初は社員数名の規模で農業用エンジンの製造を行っており、時代の流れとともに部品加工業へと業態を変更。主に自動車メーカーより部品製造を請け負っていました。その後、先代の永岡健太郎氏が会社を引き継ぎ事業拡大、前述の自動車メーカーが埼玉県桶川市に工場を新設したことに合わせて、1994年7月に桶川工場を設立。社員数も40名程度まで増え、順調に規模を拡大させていった一方で、同自動車メーカーへの依存度が高いことが課題となります。この課題への解決策として始めたことが試作部品の加工でした。試作加工を開始後、取引先企業は順調に増え、2007年4月に埼玉県日高市に日高工場を設立。2015年5月には本社と同じ敷地内の田無工場が試作加工専門工場として新しく建て替えられ、現在に至ります。



▲ 会社外観（本社・田無工場）



▲ 創業当初に生産された農業用エンジン

事業承継：永岡社長就任

3代目として代表取締役を務める永岡社長は、早稲田大学の法学部にて法律を学び、卒業後は特許事務所で弁理士を務めていました。2019年に同社へ入社後、2022年に代表取締役社長へ就任。入社時について、永岡社長は次のように振り返ります。

「家業であるから継がなければならないということではなく、前職の特許事務所で業務中に様々な企業のブランディングに関わっていく中で経営への興味が強くなってきました。経営に携わる点において、幸い自分自身には家業を継ぐことができる環境にあるため、父である先代にお願いして入社させてもらいました。父はせっかく弁理士の資格を取得したのに勿体ないと感じていたようですが、私が入社することに内心喜んでいました。」

入社後は、1年間で当社における商流や人、会社の経営状況を学び、2020年から舵取りを任せられ、その後、正式に代表取締役社長を受け継ぎました。私が社長に就任し、初めに実施したことは、組織運営の方法を確立することや社内のIT環境整備、会議運営の見直しなど、前職の職場で学んだことを

活かして社内の仕組みをアップデートしていきました。」

マツウラとの出会い

同社のマツウラ機導入は**MC-900HG PC6**（1987年設備）から始まり、現在では**MX**シリーズ16台をはじめ、全29台のマツウラ機を所有されています。今も同社の工場内で活躍する**RA-3**（1990年設備）などは同社にとってマツウラの5軸機を複数導入するきっかけとなりました。



▲ 現在も現役のRA-3（1990年設備）

「当社が試作加工を本格的に開始する際、5軸機を設備してみたかったということもあって、他社製の5軸機を導入しました。これを契機に5軸機によって職人が行う多くの工程を大幅に減らすことができ

ることを理解できたものの、設備した5軸機の精度や使い勝手があまり良くありませんでした。そこで従来から利用している**RA-3**などマツウラ機の精度が良かったこともあり、以後、多くのマツウラ機を導入することとなりました。また、マツウラ機を設備する決め手として価格面でも素晴らしいと感じており、機能や機械の視認性、接近性などの使い勝手やパフォーマンスを考慮すると良い価格設定になっていると思います。」と永岡社長。

また、同社ではGibbsCAMも5シート導入しており、その使い勝手について、「GibbsCAMには一通りの機能が備わっており、それでいてオーバースペックすぎず使い易い点が良いと感じています。当社ではGibbsCAMも利用しながら、加工プログラムの手打ちもするという方法を取っており試作加工の生産スピードを高めています。GibbsCAMはそのような使い方にも柔軟に対応してくれます。」と永岡社長。

MXシリーズの多台持ち

同社に設備されている**MX-520**（9台）や**MX-850**（7台）はパレットチェンジャーが装着されていないモデルを選択されています。**MX**シリーズの選択について永岡社長は次のように話します。

「設備の購入検討にあたり、パレットチェンジャーによる自動化も勧められましたが、パレットチェンジャーの装備により設置スペースも大きくなり、価格も高くなります。また、マツウラをはじめとする5軸加工機は量産専門加工機に比べて生産スピードが遅いことをネックに感じていました。従来から量産のモノづくりをしてきた当社では、生産スピードを加工精度と同じレベルで求める為、機械を多台持ちにしてスピード面をカバーすることを進め、気付けば**MX**シリーズは16台になっていました。パレットチェンジャーを装備してもその機械の主

短納期を実現。

軸はあくまで1本。そうであるなら、パレットチェンジャーを設置する面積にもう1台MXシリーズを設備して2個同時に加工を流したほうが良い、と



▲ 本社・田無工場の皆さんとMX-850

という発想です。自動化・無人運転については、それらが対応可能な産業の競合他社が多く、あまり積極的には考えていません。むしろ当社では、あらゆる産業の複雑な加工を行いたく、試作加工、量産加工ともに5軸機の積極的な活用を進め、技術者の育成や品質管理体制の構築等に注力しています。

マツウラの5軸機は作業者の持つ力を何倍にも引き上げていると感じていますが、それも一朝一夕ではなく、初号機を導入してから10年以上かけて技術や経験値を積んで、当社独自のMXシリーズの活用方法が確立できてきたと考えています。]

マシニングの『スピード』を逆手に取り、多台持ちという発想は同社ならではと感じました。パレットチェンジャーが全てのユーザー様に合うのかという事を再認識させていただき、これからもマツウラとしてのベストなご提案をさせていただきます。

人材育成と評価について

同社ではマツウラがユーザー向けに開講しているマツウラスクールやGibbs講習に積極的に受講いただいております。その他、同社ならではの人材育成に力を入れています。

「近年は、新入社員には入社から3年で段取り替えを単独でできるようにするという方針で教育を行っています。社内でのOJTと機械メーカーが行うマツウラスクールなどの講座を組み合わせる教育をし、CAM操作や図面の読み方の指導、時には加工の課題を出しながら、加工の基礎を築き上げていきます。その後は、試作加工もしくは量産加工のどちらに適性があるかを見極め、若い人に将来の道筋をしっかりと見せることを意識しています。」



▲ 日高工場の皆さんとH.Plus-405 (2024年設備)

「各個人の業績評価については、任意で「自己評価シート」を私に提出してもらい、何を頑張ってきて、何が足りなかったのかを1人1人面談で話し合います。そのうえで可能な限り客観的な評価を行っています。また、当社の売上

高、加工費、経費、不具合などの経営情報や加工技術情報、取引先の情報などを専用ポータルサイト上で全社員が閲覧できるようにし、できるかぎりオープンにしています。社員の皆さんには、会社の現状を理解してもらって、自分の成果が

株式会社 富士精機製作所 概要

本社・〒188-0014 東京都西東京市芝久保町1-5-2
 田無工場 TEL:0424-61-3117
 日高工場 〒350-1203 埼玉県日高市旭ヶ丘字竹の台653
 桶川工場 〒363-0002 埼玉県桶川市大字赤堀1-39-1
 代表者 代表取締役社長 永岡 慶
 創立 1960年12月5日
 従業員数 62名
 事業内容 ・自動車部品、船舶部品、航空部品、防衛部品、
 光学・電子部品、半導体部品の精密加工
 ・試作段階製品の精密加工

どのように会社に反映されているのか、自分がすべきことは何なのかを自主的に考えてもらいたいと思っています。そして、自身の給料は会社からもらっているのではなく、お客様から頂いているという視点を持ってもらうことが何より大切だと思っています。これからの時代を生き残っていくには、社員1人1人の力が必要であり、その上で、3工場が団結をし、全員で同じ方向に向かっていかなければなりません。今は、少しずつですが手応えを感じ始めています」と永岡社長。

富士精機製作所の強み

①試作工場と量産工場が両立している

同社の最大の強みは、試作工場の田無工場と量産工場の桶川工場、日高工場に明確に役割が分かれていることで、急な試作品の依頼に対しても量産が忙しくて対応できない、といったことはありません。また、試作から量産に切り替えたい場合も同社で全て対応可能ですので、安心感があります。

②業界問わず様々な依頼を受注

半導体、光学機器、ロボット、航空、自動車など様々な業界から加工を請け負っているからこそ、豊富な技術と経験が同社に蓄積しており、最高品質の製品を提供しています。

③真の一気通貫生産で他社にはない高品質を提供

素材手配から、加工はもちろん、最終塗装まで同社が責任を持って品質管理を行います。前工程の素材作りと後工程の塗装をしっかりと理解したうえで加工する必要がある加工工程を担う同社であるからこそ、最も品質に関わることのできる立ち位置でお客様の求める最高の品質をお送りしています。

今後はさらに異分野の受注に対応するための技術向上と品質管理体制の構築などに注力していくとのことです。

本社の社屋外観はモダンな外観をしており、内部もパステルカラーの壁紙が採用され、随所にアート作品が飾られているなど、一般的な部品加工業のイメージとは大きく離れたデザインをしています。その中でも事務所内で特に目立っているのが、デザイン性に富んだ椅子の数々。先代からのコレクションでもあり、ビンテージ品が並んでいます。極めつけは社長室で、椅子はもちろんのこと、書棚や各オフィス家具もこだわりの品が並んでおり、眺めているだけでも楽しい部屋でした。インタビュー動画では、永岡社長へのインタビューを社長室にて撮影しておりますので、ぜひ室内も注目してご覧ください。



JIMTOF 2024 出展レポート

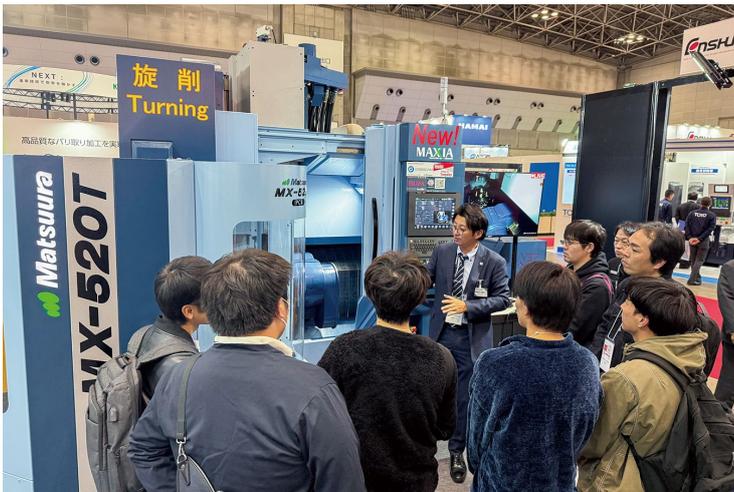


2024年11月5日(火)から10日(日)の6日間、東京ビッグサイトにて、世界最大の工作機械見本市JIMTOF2024が開催されました。

同展示会は、1,262社・5,743小間と過去最大規模の出展小間数で開催され、来場者数は129,018名と前回2022年開催の114,158名を大きく上回りました。

マツウラは「**Let's Start with Matsura** ~マツウラと一緒にはじめよう~」をキーテーマとして、マシニングセンタ/CAMブースでは、最新機種と自動化・無人運転に関してあらゆるニーズにお応えするソリューションを提案いたしました。また、AMブースではハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX**シリーズを用いた高精度金型モデルなど最新ワークとともに新しいモノづくりを提案いたしました。

本記事では展示内容についてレポートいたします。



世界初披露 MX-520T PC4

開催期間中常に注目度の高かった**MX-520T PC4**。「はじめてでも安心・簡単な5軸機」がコンセプトの人気機種**MX**シリーズの**MX-520**に旋削機能が追加された同機種に対して、来場者の方からは「手軽に工程集約ができ、生産効率アップに繋がらそう」「現在利用している**MX-520**と同じ操作感のため、追加設備しても難なく利用できることが良い」などと感想をいただきました。

加工実演では主に旋削加工を行い、同機種の切粉排出性能やパワフルに荒加工を行う様子をよくの方々にご覧いただきました。



Mios 4 & 最新 GibbsCAM 操作体験

マツウラ機の簡単!便利!安心!を支える**Mios 4**をシミュレーターを用いて体験できるスペースを用意。工具管理画面やパレット管理画面など**Mios 4**の使い心地を体験いただき、体験した多くの来場者が「直観的で使いやすい」という感想がありました。また、GibbsCAM体験スペースにおいても多くのお客様に参加いただき、マツウラのハードだけでなくソフトも併せてマツウラのソリューションをご体感いただきました。



MTD CNC取材

マツウラの海外ユーザーインタビュー動画を制作しているMTD CNCに取材いただきました。

インタビューの様子はマツウラ You Tubeチャンネルにて公開中。QRコードよりご覧ください。





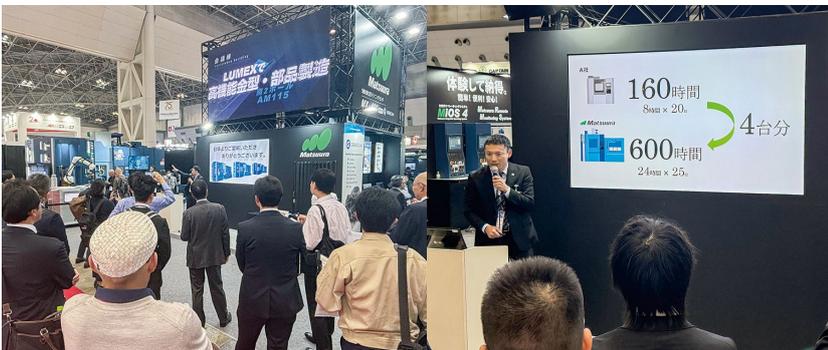
MAM72-42V PC32 with 協働ロボット

MAM72-42V PC32にファナック社製の協働ロボットを併用したマツウラの新しい自動化・無人運転ソリューションを提案。会場では、協働ロボットが段取役として、1工程目が終わったサイコロ形状のワークを



段取台のドアを開け、2工程目のワークと入れ替えるまでの動作を行いました。

さらに、このロボットシステムは移動式になっており、設営などの手間が省けて、必要なときだけ手軽にロボット化できることも来場者の方々にご覧いただきました。



プレゼンテーションステージ

ブース内のプレゼンテーションステージでは、期間中随時プレゼンを敢行。

「今からでも間に合う無人運転の始め方」など6種のテーマを3分間で説明し、プレゼンをご覧いただいた方には福井県鯖江市の名物「めがねクッキー」をお渡ししました。



LUMEXシリーズによる最新ワーク展示

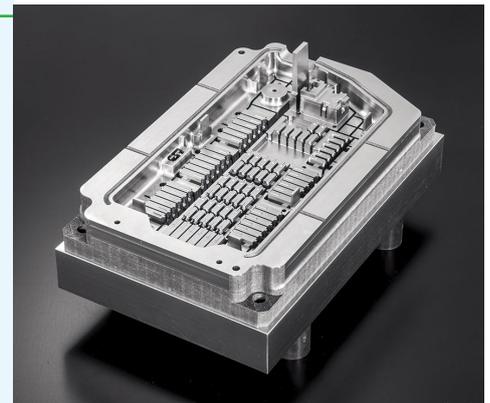
AMブースでは、ハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX**シリーズで製作した最新作を含む多数のワークや、**LUMEX**ユーザー様からご提供いただいたサンプルを展示。造形と切削を1台の機械で実現する**LUMEX**だからこそのアプリケーションを来場者に実感いただき、新たな気付きに繋がるようサンプルを工夫しました。

特に**LUMEX**の強みである金型アプリケーションでは、サンプルだけではなく、これまで取り組んできた高精度化技術を紹介。粉末をレーザで溶かし固める急熱急冷のプロセスは、造形物の寸法精度に大きな影響を与えます。そのAMならではの課題に対し、マツウラでは様々なアプローチから高精度化に向けた開発を継続しており、AMの課題をよくご存知の来場者の興味を引き付けていました。

LUMEXによる高機能金型作成

展示の目玉は、自動車向けヒューズボックスの射出成形用金型です(右の写真、160×245×H67mm)。

従来この金型は、33個の入れ子に分割して製作していましたが、**LUMEX**の造形と切削のハイブリッド工法により型分割数を2個に大幅低減しました。加工時間は造形と切削を合わせて283時間と時間だけを見れば長く感じますが、その間、無人で機械が運転を続けるため、結果的に金型コストの大幅低減を実現し、納期も2週間短くすることができました。またこの金型には、3Dプリンタならではの技術である3次元冷却水管やポーラス構造(ガス抜き)も組み込まれており、射出成形におけるサイクル時間の短縮に貢献しています。来場者からは、**LUMEX**の進歩を実感いただくコメントを多数頂戴しました。



武生事業所 新工場竣工



マツウラの製造拠点の1つである武生事業所において、生産能力の増強を目的とした拡張工事が2024年11月末に完了しました。これを機に武生工場は「武生事業所」へ改称いたします。

新棟完成を記念して2024年12月3日に武生事業所にて竣工式が執り行われました。

今回の拡張工事の目的として、本社と武生の2か所に分かれていた組立工程を武生事業所に統合。生産能力を従来から2割増強し、多様な市場ニーズに柔軟に対応できる生産体制となります。加えて組立員が多種多様な機種を担当することで、組立員の技能向上と次世代への技術伝承を進めてまいります。

また、厚生棟を新設し、カフェテリア形式で食事が取れるエリアもあります。従業員の働きやすさもより一層高めました。

新棟での生産は2025年1月より稼働します。新たなマツウラのモノづくりにご期待ください。



取締役 松浦 悠人



真に人に影響を与える言葉や伝え方は何でしょうか？勝手な意見ですが、伝えるメッセージの内容が正しいかが盲信されすぎて、何かコミュニケーションに不都合が生じている気がするのです。例えば、「苦勞から逃げない」「積極的に挑戦しよう」というメッセージを上長が伝えるのに対して、なかなか部下に響いているように見えない。上長は「最近の若者は自分たちの世代と違う。受け入れてくれない。」と結論付けてしまう。ただ、自分の言っていることは正しいと信じているので、同じようなことを同じ方法で伝え続けて、若者たちが世の真理に気づくことに期待し続けているというようなことです。メッセージは正しい内容であり、おそらく若い頃の経験に基づくものでしょ

う。だから、その内容は客観的に見ても間違っていないです。さて、極端な例ですが、「遅刻するな」と部下に言っている上司本人が遅刻しがちだったらあなたはその意見をどう受け入れるでしょうか？説得力は乏しいと思います。過去がどうあれ、現在のあなたはそのメッセージの体現者なのか？受け取る側はジャッジしているかもしれませんよ。

自分の子供も若い社員に対してもそうですが、困難から逃げない人に育ってほしい。でも、これを言葉で本人にそのまま伝えるのって、冒頭の理由もあり難しいなあとも思うわけです。「困難から逃げるな」という言葉はプレッシャーにもなりかねないし、無責任だと捉えられるかもしれません。結局、自分が困難から逃げない姿をその人に見せ続けるっていうのが一番の伝え方なのだと思います。

こだわるといっているのはどういうことか？それは2つの選択肢がある時、より難しい方を自ら選べるかということです。これは毎年、新入社員の入社式で社長が訓示で伝えていることです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

海外ユーザーインタビュー



mbc Maschinenbau Coban 社 ドイツ

夜間無人運転で事業拡大



mbc Maschinenbau Coban 社様は精密部品を受託製造しているお客様です。

同社は受託製造業者として長年培ってきた専門知識を活かして、自動車や医療分野など幅広い産業を相手に活躍しています。同社は **MX-850** を計3台保有しており、動画内では、2023年に導入した **MX-850 PC4** をメインにインタビューを行っています。**MX-850 PC4** を導入した目的は、夜間に長時間無人運転を行うこと。同機種はパレットチェンジャーに段取台が備わっており、機械稼働を止めることなく素材の段取ができる点を同社のAdam氏は評価します。また、過去に設備したマツウラ機に対して、「主軸の振れ精度は10年経っても初日の精度と全く変わっていません」と精度面に関しても満足いただいているよう



▲ キサゲ作業を体験するEminさん(右)

うです。

QRコードを読み取り、ぜひ動画をご覧ください。

動画に出演したお二人に2024年のAppreciation Tourに参加いただきました。

マツウラ本社と武生工場をご案内し、マツウラのモノづくりについて体感いただきました。

シングルorダブル

福井ユナイテッドFC、後一步でした



社長 松浦 勝俊

マツウラは、地元スポーツの振興支援として北信越フットボールリーグに所属するサッカーチーム「福井ユナイテッドFC」を応援しております。

これは、弊社が、「One Team」としてチームワークで運営する中で、野球のように監督から指示された指令に

より選手が動くのではなく、サッカーのように監督が戦略を説明し、それを選手が共有し、各自が考えて呼応して、ゴールを目指すサッカースタイル経営を標榜していたことから相通ずるものがあったこと。それと我が福井に地元のプロスポーツチームを是非とも誕生させ、地域の人達が一つになって応援するチームがあったらいいのという思いがずっとあって、その実現性が高そうなのはこのチームだと感じたからでした。地元のチームというと、例えば名古屋なら中日ドラゴンズや名古屋グランパスが子供の頃から球場やスタジアムに行く機会があって、プロスポーツ選手を実際に目の当たりにして憧れを持ったり、地元チームを応援する気持ちが普通に醸成される環境があったりとして

マツウラは、10年以上前からこの前身となるサウルコス福井時代からサポートしており、スポンサー支援と併せて選手がチーム練習に参加出来るような雇用環境を提供したりしております。

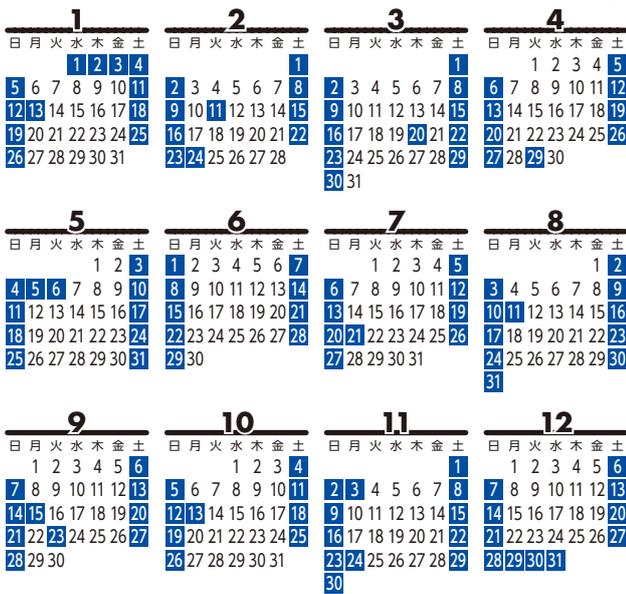
福井ユナイテッドは、昨年北信越フットボールリーグを全勝で優勝し、サウルコス時代から数えて11回目の挑戦となった全国地域チャンピオンズリーグ決勝ラウンドに順調に駒を進めて、悲願の日本フットボールリーグ(JFL)昇格を懸けて決勝ラウンド4チームの総当たり戦に挑みました。最終戦前4チーム中1位で、勝てばJFL昇格、引き分けもしくは2点差以内の負けでも2位の入れ替え戦になるという大変有利な状況であり、この調子ならもうJFLに行けるものと思っていました。最終戦は、序盤攻め込まれ先制されましたが、直ぐ同点に追いつき、その後守備の隙を突かれて追加点を奪われ、前半を1-2で終えました。後半は、点の取り合いになり、粘りを見せたものの、力尽きて3-6で敗れ、全くシナリオにない結果となり、得失点差で3位となってJFL昇格は果たせませんでした。

ほんのそこまで来ていて思い描いたようにならないことって人生でありますね。色々考えさせてくれる出来事でした。

お知らせ

1 2025年度 松浦機械製作所暦

(■は休日)



2 2025年度マツウラスクール開催日程

開催予定月	日程	スクール内容
1月	14日(火)～17日(金)	基礎コース
2月	18日(火)～20日(木)	5軸加工コース
3月	11日(火)～13日(木)	高速・高精度コース
4月	8日(火)～10日(木)	5軸加工コース
5月	13日(火)～16日(金)	マクロコース
6月	3日(火)～5日(木)	5軸加工コース
7月	8日(火)～11日(金)	基礎コース
8月	5日(火)～7日(木)	5軸加工コース
9月	9日(火)～11日(木)	高速・高精度コース
10月	7日(火)～9日(木)	5軸加工コース
11月	11日(火)～14日(金)	マクロコース
12月	9日(火)～11日(木)	5軸加工コース

※お申し込みは各営業所までお願いします。
 ※日程や内容は予告なく変更となる場合がございます、お申し込みの際にご確認ください。

3 中学生職場体験受入



2024年10月24日～25日の2日間、森田中学校2年生の職場体験受入を行いました。体験内容は部品受入検査を行い、図面の見方や計測器具の使い方を学びました。体験した学生からは「現状に満足することなく、常に新しい物を生み出そうとする大切さを身を持って感じました」と感想をいただきました。

4 JIMTOF2024学生向け活動



本誌4P～5Pに特集のJIMTOF2024に2024年夏季5Daysインターンシップ参加学生と2025年新卒採用内定者を招待いたしました。会場内の各ブースを案内し、工作機械業界の面白さを体感いただき、参加者は一様に展示会の規模に驚いていました。その他、日本工作機械工業会主催による学生ツアーもマツウラブースにお越しください、当社の最新技術に触れていただきました。

本号の書き終わり

* 10月度の工作機械受注額は1,226億円(前月比98%)と、前月比では2か月ぶりに減少、前年同月比3か月ぶりの増加、2か月連続で1,200億円を超えました。内需は334億円(前月比81%)と、前月比で2か月ぶりの減少となりました。前年同月比では26か月連続で減少となっています。この動きは2024年初めの水準とあまり変わりなく、ほぼ横ばいにて推移しています。外需は891億円(前月比106%)と3か月ぶりに850億円を上回りました。地域別では、アジアにおいて、一般機械、自動車も堅調な中国を中心に、中国、ベトナム、インド

大型受注も加わり、アジアは4か月ぶりの450億円超となりました。また、他の地域ではアメリカにおいて6か月ぶりに200億円を下回り、北米エリアでは42か月ぶりに220億円を下回りました。
 * 2024年4月に新卒にて入社した22名の全員が新入社員研修を無事に終え、1月より各部署へ配属されていきます。仕事納めの12月27日に技術職や営業職へ配属予定の者は自身の配属先を知ることとなるのですが、この瞬間が本人はもちろんのこと、新卒採用担当・新入社員研修担当としても緊張の瞬間となります。配属先は本人の希望を重視しつつ、社内でのニーズや研修中の本人の適正により決定されますので、必ずしも本人の希望通りとはなりません。

ん。配属先を人事企画室から1人ずつ読み上げられ、納得した様子で大きな返事をする者、予想に反して驚きを隠せず返事が小さくなる者など、その時の様子は様々です。配属先決定の難しいところが、必ずしも希望通りに配属させれば活躍するということではないということです。過去には、希望とは異なる配属であったものの、入社4年目で海外に駐在し、仕事とプライベートの両方を楽しむ者もいます。1人1人が自身にかけられた期待を理解し、いち早く活躍することを願うと同時に、彼らの成長を促すために社としてもサポートします。
 * 本年も松浦機械製作所をどうぞよろしくお申し込み申し上げます。